

脱炭素へ 光るアイデア

山形 高校生が研究成果披露



県内高校の10グループがアイデアを提示した
成果発表会 二県庁

県の補助金を活用し、「カーボンニュートラル」の実現に向けた研究などに取り

組む高校生の成果発表会が30日、県庁で開かれた。10グループが風力や太陽光に

よる発電などを提示し、温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すアイデアを披露した。

村山産業、山形東、山形工業、天童、米沢興譲館の県内各校の生徒が参加。発電効率の高い小型風車の製作、自作の太陽光発電パネルと市販品との性能比較、微生物発電に適した土壌環境を探る実験などを紹介した。

果実の廃棄を減らそうと規格外のサクランボと地元の特産野菜・ハツカを使つた商品を開発したり、カーボンニュートラルの認知度を調査し、一層の浸透を図って啓発したりといった活動報告もあった。

山形大カーボンニュートラル研究センターの吉田司代表、県環境科学研究所の青木政浩所長が、研究手法やプレゼンテーションの改善点をアドバイスした。生徒たちは「工学分野以外の取り組みを知って、視野が広がった」「助言を生かして研究をレベルアップさせたい」などと感想を語った。

県は昨年度、「カーボンニュートラルチャレンジ応援補助金」を創設。脱炭素社会の担い手となる若い世代の研究などを後押しし、意識醸成を図っている。

(吉村瑛人)